

の部屋にとどまつて琴をひいていた。そこへ舜が帰ってきて、この有様をみた。象はびっくりして不機嫌な態度で、「わたしは兄さんのことを考え、ふさぎこんでいたところです」と、いった。舜は、「そうちか、おまえはなかなか兄思いだなあ」といった。舜はもとより瞽叟につかえ、弟を愛し、いよいよ謹み深くあるまつた。そこで、堯は舜をして五典を教える官や、百官を統べる役につけてためしてみた。ところが皆よく治まつて実績があつた。

**語釈** ○綿衣 細い葛布の衣。○倉廩 ともに米穀を納れるぐら。○上塗 狩本他諸本に「塗」の字無し(校補)。○扞 ふせぐ。火の迫るのをふせぐ。○匱空 空は音コウ。かくしあな。抜け穴。○鄂 愕に同じ。おどろく形容。愕然。殿本に鄂は「愕」に作り、狩本他諸本「鄂然」に作る(校補)。○鬱陶 心重く、気分の伸びないさま。ふさぎこむさま。○其庶矣 庶はらかし。庶幾。ほとんどそれに似ているの意。弟としての情義にちかしの意。兄思い。○五典 尚書舜典に「慎みて五典を微(能)くす。五典克く従ふ」とある。五典とは、父は義、母は慈、兄は友、弟は恭、子は孝で、家庭道徳の最初のものである。○百官 沢山の官職。尚書舜典には、「百揆を納る」百揆時に叙すとある。舜に沢山の官職を統轄させた。百官の度るところ、皆宜しきを得て職務を怠るものがない。

<sup>16</sup>昔、高陽氏有才子八人。世、得其利、謂之八愷。高辛氏有才子八人。世、謂之八元。此十六族者、世濟其美、不隕其名、至於堯。堯未能舉。舜舉八愷、使主后土、以揆百事、莫不時序。舉八元、使布五教于四方。父義、母慈、兄友、弟恭、子孝、内平外成。

**通釈** むかし、高陽氏に八人の才子があつた。当時の社会は、その八才子から利益を得たので、これを八愷といった。高辛氏にも八人の才子があつて、世にこれを八元といった。これら十六人の一族のものは、代々美德を成しとげて先祖の名声をおとさず、堯の時代にまで至つた。ところが、堯はまだこれらの人びとを挙げ用いることができなかつた。舜は八愷を揆る。時に序でざるは莫し。八元を挙げ、五教を四方に布かしむ。父は義、母は慈、兄は友、弟は恭、子は孝、内平かに外成る。

を登庸して土地のことをつかさどらせ、万事をはからせたところが、時宜を得ないことはなかつた。また、八元を挙げ用いて五教を四方へ教え広めさせたところが、父は正義を守り、母は慈愛豊かになり、兄は弟妹をいつくしみ、弟は兄姉に敬順になり、子は孝行となり、家の内は平和になり、世の中もよく治まつた。

**語釈** ○愷 やわらぐ(和)の意。八愷とは八人の温和な才子。倉舒・隣體・檮戭・大臨・龐陰・庭堅・仲容・叔達で、舜に挙用されて司空(水土を担当する大臣)となつた禹は八愷の子孫の一人である。○元 善の意。八元とは、八人の善良な才子。伯奮・仲堪・叔獻・季仲・伯虎・仲熊・叔豹・季羣で、舜に挙用されて司徒(文教を担当する大臣)となつた契(き)は、八元の家系の一人である。○済 成す。なしとげる。○墮 墜す。名声をさげおとす。○后土 土地。天を皇帝といい、土地を后土という。土地はものを生ずる力があるから、后土は土地の神の意となる。○揆 はかる。度る。○時序 時によく合つて宜しきを得ること。○布 広い範囲にわたつて施すこと。○教 父は義、母は慈、兄は友、弟は恭(狩本は「敬」に作る)、子は孝。人としての五つの道。前出の五典と同じ。五常(仁・義・礼・智・信)と五倫(親・義・別・序・信)と文献によつては混同される。舜の時代としては、前出の五典と五教を同一にして、義・慈・友・恭・孝の五つの道とするのがよい。○内平外成 内は家庭、外は世間。外を夷狄、即ち国外とする旧注には従いかねる。

<sup>17</sup>昔、帝鴻氏有才子。掩義隱賊、好行凶慝。天下謂之渾沌。少皞氏有才子。毀信惡忠、崇飾惡言。天下謂之窮奇。顓頊氏有不才子。不可教訓、不知語言。天下謂之燭杌。此三族世憂之、至於堯。堯未能去、縉雲氏有不才子。貪於飲食。冒于貨賄。天下謂之饕餮。天下惡之、比之三凶。舜賓於四門、乃流四凶族、遷於四裔、以御魑魅。於是四門辟。言